



日本リメディアル教育 第3回関西支部研究大会
関西外国語大学 2011/03/23

学習者が英語ライティング能力を 協調自律的に高めるための 教材開発に関する研究

東郷多津, 田中美和子
(京都ノートルダム女子大学)



世界の潮流の変化と21世紀の大学教育

- コミュニケーションの質とスピードが高まる。
- グローバル社会への個人のコミットメントが強まる。
- 個人がメディアに直接参加する機会が増える。
- データベースのサイズと多様性が高まり、国境をこえて地球規模で共有される知識の量が拡大する。
- 自ら考え、自ら行動し、同時に文化的背景の違う人間と協力できる人材が重要になる。
- お互いを理解し、世界に存在する諸問題を発見・解決するための、論理的・倫理的・開放的・臨機応変的コミュニケーションスキルが重要になる。
- 一人でも多くの人を幸福にできる仕事を自分で得る力が重要になる。
- 学び続けることのできる力が重要になる。
- 政治、経済、外交、社会システム、科学技術政策などが多様で複雑になり、それらの利害を深い思慮と戦略を持って調整する能力が重要になる。
- 専門知識の基礎を実用に耐えるように叩き込むことが重要になる。
- 人的ネットワークとデジタルネットワークをインフラとして知の協働を実現する「21世紀に生きる力」を育む高等教育環境が必要になる。

安西祐一郎「日本の高等教育はどこに行くのか？-環境変化の時代を生き抜く大学のあり方-」『社会から求められる大学の人材養成とその教育力』（2010/07/05）

http://benesse.jp/berd/center/open/dai/between/2010/10/01toku_44.html

(2011/03/22 retrieved)「

学生が身に付けるべき

「21世紀を生きる力」 (安西 2010)

- 「基礎的な専門知識(知識力)」
- 「自分で考え、自分で行動することのできる力(知情意の総合力)」
- 「一人でも多くの人と幸福を分かち合う仕事をすることのできる力(就業力)」
- 「学び続けることのできる力(生涯学習力)」

1: 問題の所在:

教育現場と社会が求める人材ギャップ

社会が求める人材

- 積極的
- 論理的
- 自律的
- 協調的
- 創造的
- 独創的
- 専門的



本学学生の実態

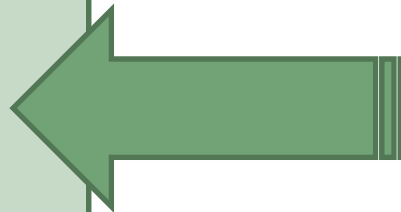
- 消極的
- 印象的
- 依存的
- 唯我独尊的
- 記憶的
- 二者択一的
- 一般的

2. 問題解決のために:

学習観の転換を図る必要性

社会が求める人材

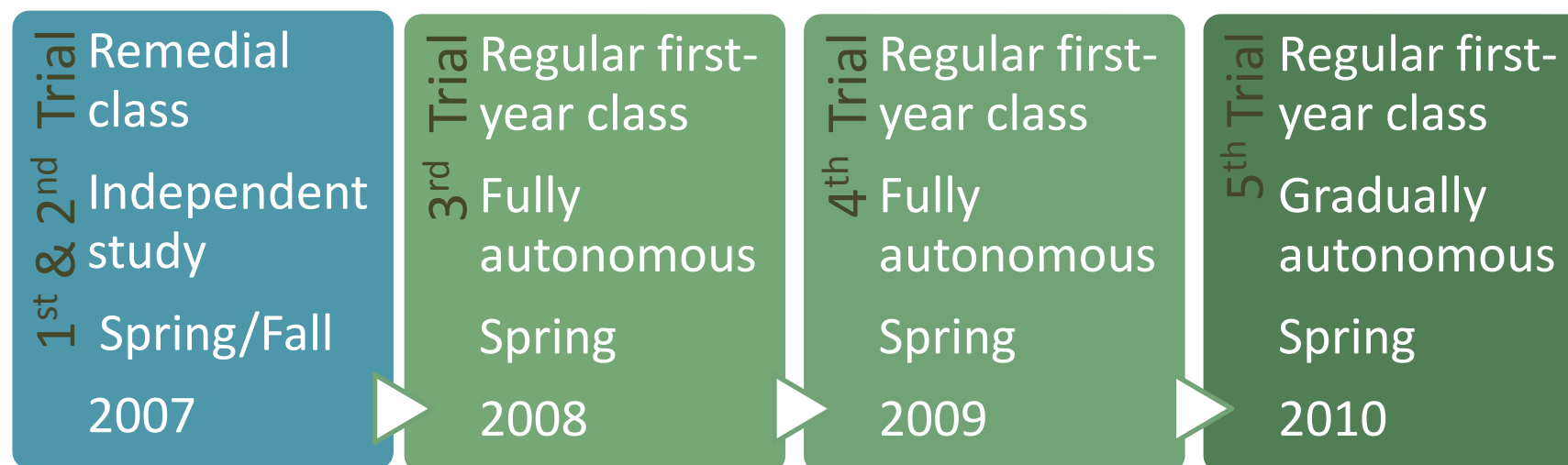
- 積極的
- 論理的
- 自律的
- 協調的
- 創造的
- 独創的
- 専門的



本学学生の実態

- 消極的
- 印象的
- 依存的
- 唯我独尊的
- 記憶的
- 二者択一の
- 一般的

3. これまでの開発授業



フレームワーク作成

一般クラスへ適用

形式や文法強化

内容強化

4. 今回の開発授業

6th Trial Regular first-year class
Collaborative-autonomous
Fall / 2010



協調自律学習の
導入

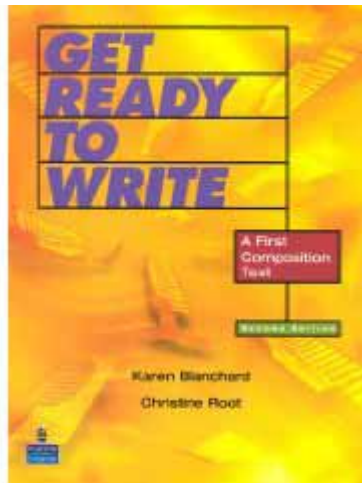
???

???

???

4-1. 研究の対象

英語を専攻しない学部の1回生 A・Bクラス(59人)
必修科目『英語 WRITING』 再履修生8人
一般教室での授業



Get Ready to Write:

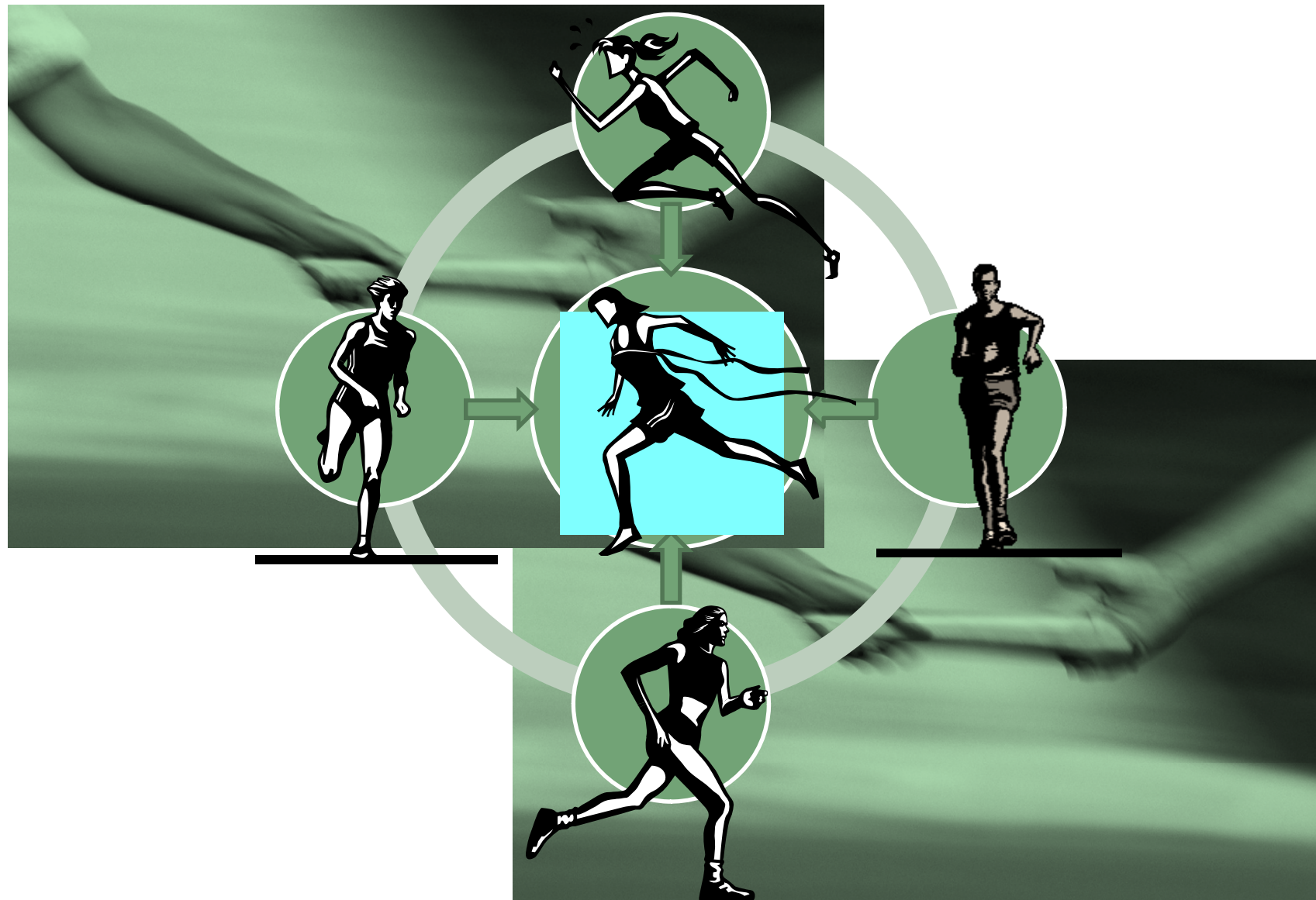
**A First Composition Text
(2nd Edition)**

Karen Blanchard (著),

Christine Root (著)

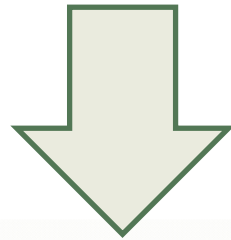
Pearson Longman

4-2. 開発授業のイメージ：駅伝



4-3. 授業の目標：自律的な学び

♥2010年前期の授業では、自律的に学びながら英語で自分の意見を発信できるようになることを目指しました。



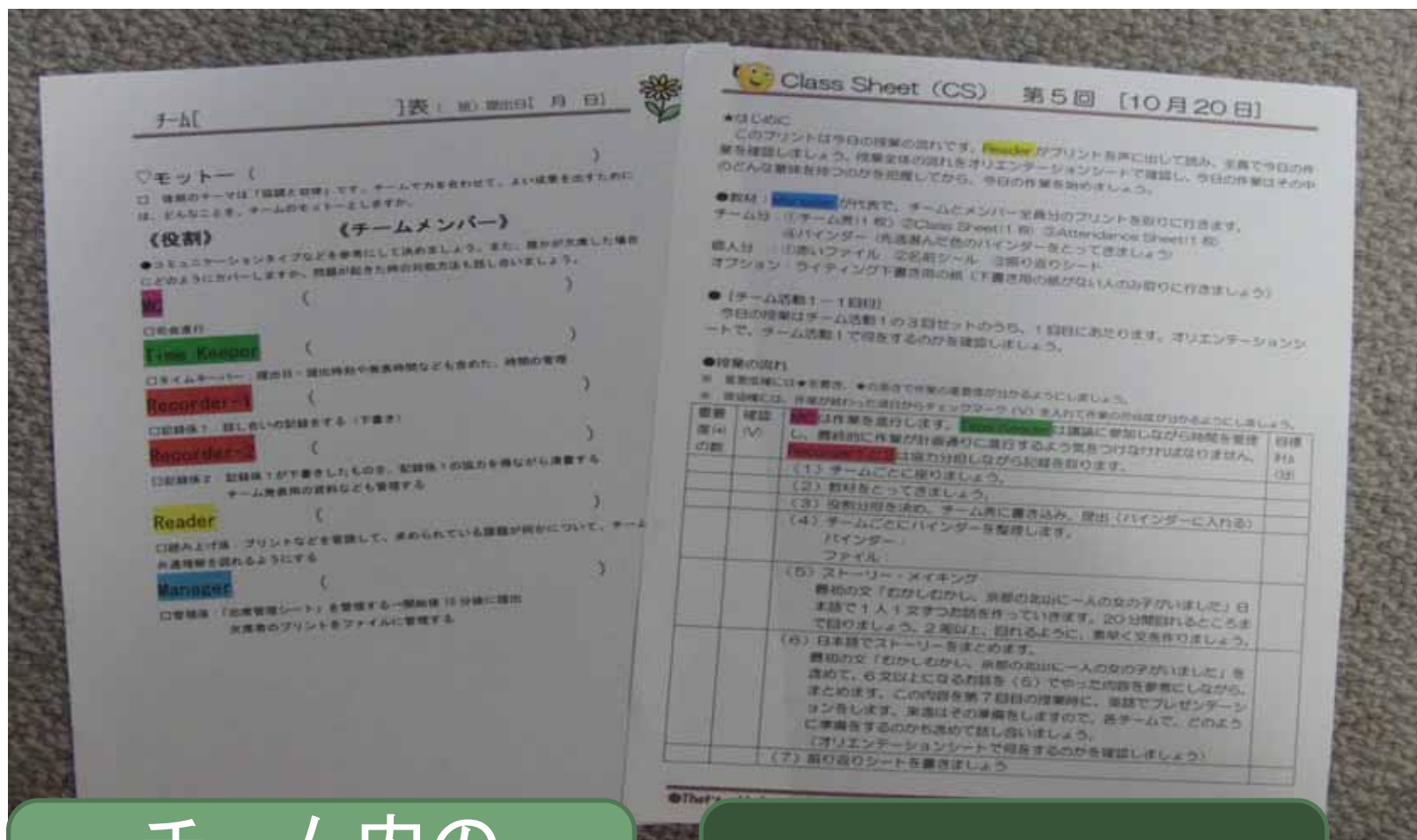
♥2010年後期の授業では、クラスメートと協調しながら、自律的に英語の学習を進めることを目指します。

The image displays a collection of educational materials, likely from a Japanese high school curriculum. The materials are overlapping and show different parts of the curriculum, such as grammar rules, vocabulary, and exercises.

- Top Left:** A page from a Japanese textbook, possibly a grammar book, with a green header and a small illustration of a building. It contains text in Japanese and English, including the title "Class Sheet (CS)" and the date "12月12日".
- Top Right:** A page titled "Class Sheet (CS) 第14回 (12月12日)". It contains a list of grammar points and exercises, including a section on "Class Sheet (CS) 第14回 (12月12日)".
- Bottom Left:** A page titled "Class Sheet (CS) 第12回 (12月15日)". It contains a list of grammar points and exercises, including a section on "Class Sheet (CS) 第12回 (12月15日)".
- Bottom Right:** A page titled "Class Sheet (CS) 第13回 (12月22日)". It contains a list of grammar points and exercises, including a section on "Class Sheet (CS) 第13回 (12月22日)".

The materials are overlapping and show different parts of the curriculum, such as grammar rules, vocabulary, and exercises.

5-1. 新しく導入した教材



チーム内の
役割分担表

クラスシート

5-1-1.チームの役割

- MC : 司会進行
- Time Keeper: タイムキーパー: 提出日・提出時刻や発表時間なども含めた、時間の管理
- Recorder-1: 記録係1: 話し合いの記録をする(下書き)
- Recorder-2: 記録係2: 記録係1が下書きしたものを、記録係1の協力を得ながら清書する。チーム発表用の資料なども管理する
- Reader: 読み上げ係: プリントなどを音読して、求められている課題が何かについて、チームで共通理解を図れるようにする
- Manager: 管理係: 「出席管理シート」を管理する→開始後15分後に提出する。欠席者のプリントをファイルに管理する

5-1-2.クラスシート

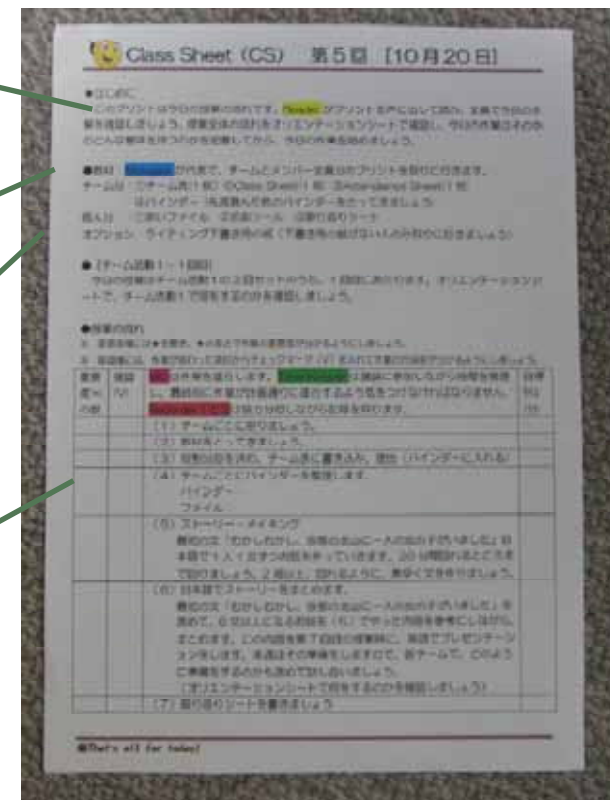
- その日の授業の流れを書いたものをチームに1枚ずつ配布する

はじめに:何をする日かを簡単に説明する。Readerの仕事

授業目標:全体の中で今日の授業目標

教材:学習は何かが書かれている

授業の流れ:今日の授業では何をするのか、各作業ごとに学習内容



5-1. 1st Class :オリエンテーション

- PPTと印刷教材を使った説明
 - 学習目標の確認
 - 授業イメージの共有
 - 学習の流れ
 - 最終評価説明
- チーム分けのための調査と英作文



5-2. 1st SET チーム活動の準備

目標：クラスメートと協調しながら、自律的に英語の学習を進めることを目指します。

2nd Class チーム活動のイメージ共有「旅人café」

3rd Class 個人で後期の目標を設定、「チームの中での自分の役割」についてのライティングとPeer Review

4th Class パラグラフの書き直しと自己評価



5-3. 2nd & 3rd Set チーム活動1,2

- 目標: チーム活動で協調しながら、自律的に英語のパラグラフを書くことができる
 - 2nd Set ストーリーメイキング(チーム対抗)
 - 3rd Set 国または都市紹介(チーム対抗)



5-4. 4th & 5th Set

自律的な学習活動とまとめ

- 目標: チーム活動で協調しながら、自分自身で計画を立て、自律的に、よりよい英語のパラグラフを完成させることができる
 - 11th ~13th Class ミニ文法講座の後、‘My Home Town’か ‘Someone’s Biography’のタイトルでパラグラフを仕上げる。チーム内Peer-reviewや書き直しを含む
 - 14th~15th Class オリジナルのパラグラフを各人で仕上げる。Peer-reviewや自己査定、書き直しを含む

5-5: 評価基準

- 振り返りシート(全14枚) ()枚×1点+1点→()点
※最高15点
- 12月のLLC講演会に出席 1日×1点 →()点 ※ 0~1点
- 課題ライティング(全4回) ()枚×10点→()点 ※最高40点
- レビューシート(1~3枚) ()枚×3点 →()点 ※最高 9点
- 協調自律度(自己申告6項目) ()項目×1点→()点
※最高 6点
- 最終課題まとめの作文 評価() →()点 ※最高30点
- 自分の予想点 合計()点 ※最高合計101点
- 教師裁量点 -20点~20点 ※教師裁量とは別に、ルーブリックの基準と最終課題の自己査定が著しくかけ離れていると複数の教師が判断した場合には、適正な査定(1~5)に差し戻す

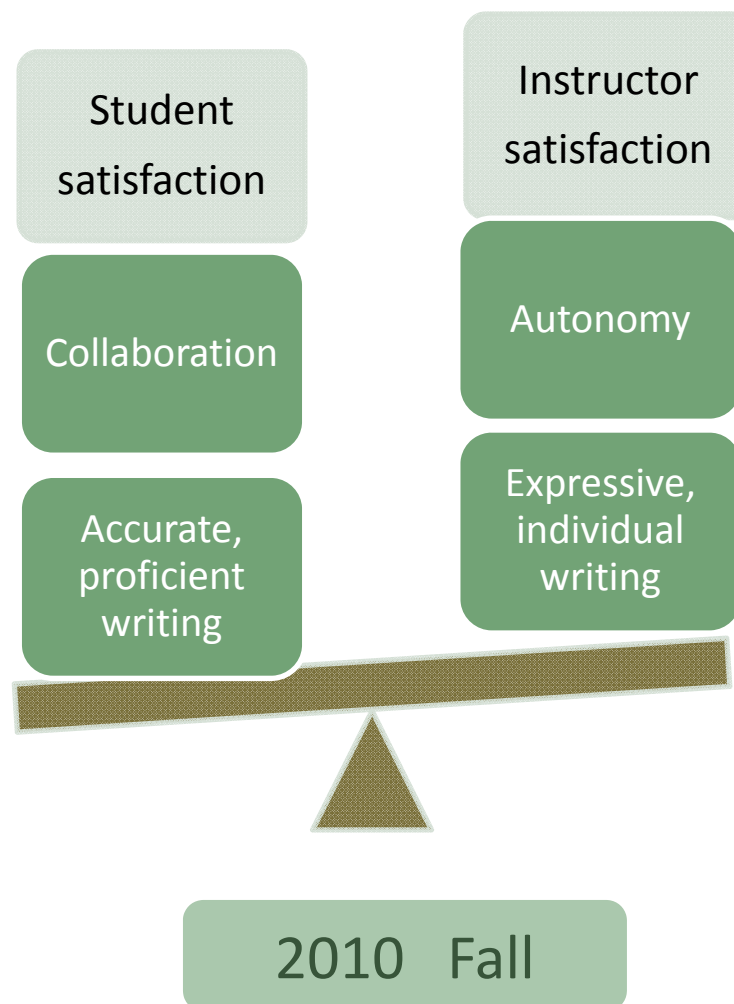
6. 結果と考察

2008 – 自律高, 満足感高
内容の多様性有 but 文法, 英文構造ミス多

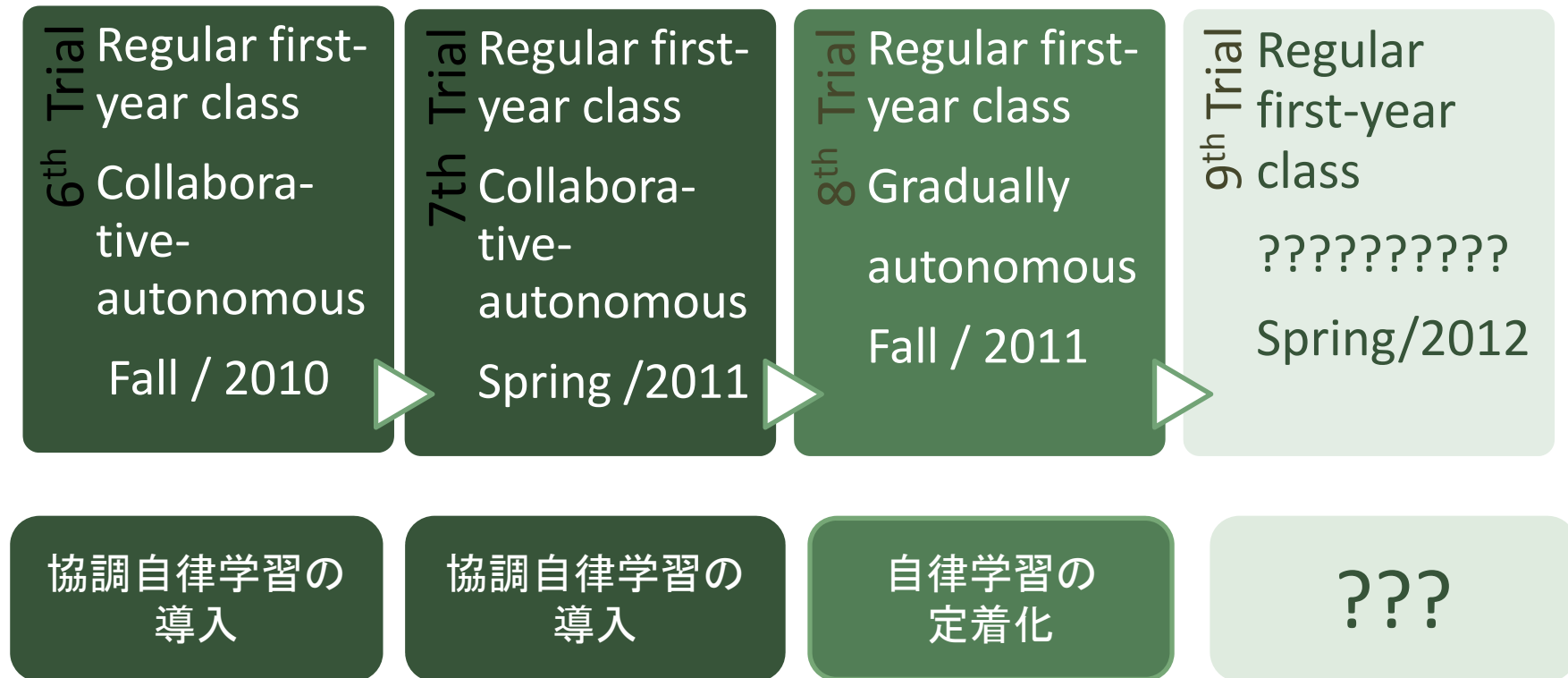
2009 – 授業および教材
改善により文法, 英文構造は改善 but 内容の画一化, 士気低

2010(spring) – 自律(低→高), 満足感中~高, 内容の多様性有 but 文法、英文構造ややミス有

2010(fall) – 自律高、協調中~低、内容の多様性有、構造ミス少but文法ミス有



7. 最後に:今後の授業開発



協調力を含めた学習者の自律と英語学習に対する意識を確認しながら、教材と学習者の満足感の効果的なバランスを求めるためには、さらなる教材を含めた授業改善を行う必要がある。

参考文献

青木直子(2008)『学習者オートノミーを育てる教師の役割』「英語教育」
Vol.56.No.12、東京：大修館 pp.10-13

清田洋一(2008)『授業の内外でポスト・リーディング活動を 英語 I での実践
例』「英語教育」Vol.56.No.12東京：大修館 pp.14-16

Singer Jane, Togo Tazu, Mochizuki Shiho, Tanaka Miwako (2010) “Applying an
Autonomous Learning Approach to an English Academic Writing Course”,
立命館大学言語教育研究, 2010, Vol.26-3, pp.209-219

東郷多津, 田中美和子 (2010)『学習者がWritingの授業でパラグラフを構成
するスキルと文法力とを自律的に高めるための教材開発に関する研究2
』日本リメディアル教育学会第6回全国大会、湘南工科大学、2010年8月
31日

西之園晴夫編. (2004)『教育の方法と技術』 ミネルヴァ書房